令和元年度　第３回社会教育委員会議　概要

日　時：　令和元年９月 17 日（火）午後２時 30 分～４時 30 分

場　所：　逗子市役所５階　第４会議室

出　席：　角田委員（議長）、長坂委員、桑原委員、堀江委員、松井委員、山田委員、
　　佐藤委員、吉川委員、東委員
欠　席：　津留﨑委員
事務局：　社会教育課　橋本課長、黒川係長、匂坂、中村、内山（記録者）
傍聴者：　なし

資　料：
　１　教育委員会定例会会議録（令和元年４月、５月）
　２　令和元年度第２回社会教育委員会議概要（案）
・ 令和元年度社会教育課主催講座実施計画（９月 17 日現在）
・ 令和２年度社会教育課主催講座実施計画／社会教育課主催講座　新規テーマ（案）
・ 社会教育課 講座アンケート（案）
・ 令和元年度神奈川県社会教育委員連絡協議会総会資料　　（総会不参加の委員のみ）
・ 社会教育委員活動のためのハンドブック　2019（改訂版）（総会不参加の委員のみ）

●開会

●資料確認

●報告事項（１）神奈川県社会教育委員連絡協議会 総会（６月 28 日）

○委：参加者は 105 名、委任状が 113 名。平成 30 年度の事業報告、会計報告および令和元年度の事業計画、予算について。また、文部科学省総合教育政策局地域学習推進課課長補佐 下田 力 氏により「地域における社会教育委員の目指すもの」をテーマに講演が行われた。

○委：人口減少が顕著で地域に貢献する人も減っていくなかで、また予測のつかない社会情勢のなかで、社会教育をどのように実施するのかが主な内容であった。地域の学校と協働しながら社会教育をすることを強調され、公民館、図書館、博物館など社会教育施設が果たす役割についても詳細に説明された。

●報告事項（２）神奈川県社会教育委員連絡協議会 研修会（８月 26 日）

○委：「地域に貢献する社会教育」をテーマに、日本大学文学部教授の佐藤 晴雄氏が講演。地域が必要とするものを学校に求め、学校での課題の解決を地域に求めるといった内容。学校からのニーズは、子どもの見守りにつきるということだったが、子ども会や老人会が衰退していくなかで、社会教育の果たす役割が重要なのではないかと話された。その後グループでの話し合いがあったが、コミュニティセンターの運営組織に社会教育委員を必ず１名入れるという取り組みを行っている町があり、興味深かった。

○委：講演では、学校を地域化し地域を学校化し、両者を win win となるよう構築することが必要であるということだった。学校の地域化には具体的な話があったが、その逆はあまり話がなかった。グループ討議では松田町の委員がおり、家庭で本を読もうという、家読キャンペーンを社会教育委員が中心になって取り組んでいるとのことだった。愛川町では年３回のイベントに社会教育委員が関わっている。伊勢原市はコミュニティスクールに取り組んでいる。
３年位前の地区研究会場の真鶴町では、社会教育委員がコーディネーターのような役割を担っていた。昨年の清川村でもイベントを社会教育委員がコーディネートしていた。小さい町ではアクション型、社会教育委員が実際に市民グループと関わり、また市民団体が地域づくりの中に位置づけられていると感じる。大きい都市となると、学校との関わりやコミュニティセンターの運営の話などが聞かれ、市民団体の役割が定着していないという印象を受ける。逗子は良い側面もあるが、アクションがない。今後の社会教育委員としての課題を感じた。

●報告事項（３）教育委員会定例会について

〇事：資料１参照。社会教育関連の議題として、文化財関係の工事計画についての報告、オリンピック関連担当所管の紹介（４月）、オリンピック関連の報告（５月）があった。

●議題（１）社会教育課所管講座事業について

○事：今年度の実施講座については、すべて決定した。令和 2 年度の案も作成した。なるべく早い段階で下案を社会教育委員に提示し、可能な限りご意見を反映させていきたいと考えている。講座のアンケートは、来年度から改良すべく案を作成した。
性別を尋ねる必要性が様々な場面で問われているが、「受講者の傾向を把握したいため設問に加えております」の一文を追加し、様々な性の人がいるので、男女を選択するのでなく記入式にしている。
講座に点数をつけることについて、参加者からもその是非について意見があがっているが、市の総合計画として、各種講座について「評価 80 点以上を目指す」という項目が 2022 年までの計画に入っており、なくすことはできない。6 段階の評価を点数化することを考えている。

○委：アンケートの点数をなくすのは、受講者側としてもどうつけたものかと思っていたので、良いと思う。「満足・やや満足・普通・やや不満・不満」の 5 段階評価がよくあるパターンである。

○委：意見や感想を書いて欲しいので、最後の自由記述欄を枠で囲む、大きくするなどして、書きやすくするのが良い。「今後受けてみたい講座」は、選択肢を細かく示すより、例えば「子育て」など大きいテーマのみを書き、具体的には自由記述にする。

○委：7 月の遠藤まめたさんの講座に参加した。教員の参加が多く満席で、先生方も熱心に聞いていた。一般市民だけでなく、関係者も一緒に受講できるなど、他課とコラボレーションした講座の設定が大変良かった。来年度も続けてほしい。

○委：障がいをもっている方の取り組みや能力などもテーマに取り入れてはどうか。パラリンピックもイメージがだいぶ変わっている。

○委：「今後受けてみたい講座」に SDG s 関連も入れてはどうか。最後の自由記述欄は、裏面に誘導するのでなく、レイアウトを工夫して欄をしっかり設けるのが良い。

○委：今年度、高齢男性向け講座として 24 コマある。高齢男性とは定年退職した人で、そういった人に逗子の戦力になってもらうことを考えているのか。これまでは市外で働き、地域のことには疎い人も、地域での活動にデビューする機会を提供できる講座はどうか。

イベントの裏方も減ってきている。イベント、祭、文化など活動している人に現状や今後やろうとしていることを説明してもらいながら、参加を促す。高齢男性に発信できて、２，３か月後またはそれより早く何らかの活動に参加できるパイプとなる講座。

○委：逗子でデビューするには、の情報提供。どういうものがあるのか、情報提供でもよいのではないか。団体を呼んで、活動を紹介してもらう。説明会的な気軽に参加できるもの。

○委：市民協働課の逗子 60’s もまだ稼働している。

○委：ＺＡＦにかかわっているが、都心で働き忙しい人も、趣味さえあれば土日は地元で自分の発表したいことのために頑張れる。違いは何なのかと考えると、趣味があるかどうか、他者との共通点になるもの持っているかどうか、であると感じている。同じ趣味の人同士での関わりができたり、趣味を生かして人のために何かできないか、いうことにつながるのではないか。引きこもりがちな人を外に出そうというより、社会教育を通じて趣味を見つけることを手伝っていく。

○事：オイルパステルや自彊術は講座後サークルができた。

○委：DIY はどうか。工具の使い方の入門講座など。

○事:歴史講座は男女問わず大変人気があり、人数も集まる。歴史といっても地域色が強く、ここでしか聞くことができないというのも要因だろう。

○委：年間計画など講座の告知を、自治会を通じてお知らせする方法を検討してはどうか。

○委：自治会それぞれによって成り立ちや、活動、情報の回し方も異なっている。

○委：住民自治協議会もある。また、活動が活発な山の根では、社会教育も地区のなかで充足しているようだ。新宿自治会も立ち上がって盛り上がってきているが、市のことを自治会でというより、自治会のことを市でやってほしいという感じだろう。

○委：自治会を通じて告知する意見は、地域に根差した社会教育と乖離していくことへの危機感からと見受けられる。広報誌で気づかないことや、何度か目にすることで気にとまることもあるだろう。実際はそこで協力を得るのは経験からもかなり大変であると感じるが、

どうしたら地域と社会教育が結びつくのか、それが自治会という切り口であったら良いと思う。

●議題（２）第２回社会教育委員会議概要（６月 18 日）（案）について

〇事：資料２参照。意見等あれば、９月末日までに連絡いただきたい。

●その他

○今後の行事等に関する情報交換

○事務局より委嘱について

●閉会

委：は委員、事：は事務局が発言した内容。